



Interview #3
**移住者
 インタビュー**

にしごみ しんいち
西込 伸一さん
 高知出身。福岡の大学卒業後、音楽エンジニアとして福岡・名古屋・東京で活躍。J-POP最盛期の多忙な日々を経て、定年を前に憧れの九州で「終の住処」を探し、縁あって本耶馬溪に移住されました。

リタイア×田舎暮らし

本耶馬溪に移住しようと思われたのはなぜですか？
 都会で長く暮らしてきたからこそ、自然の豊かさに惹かれて本耶馬溪に移住しました。山や川がすぐそばにあり、四季の移ろいを日常の中で感じられるのは大きな魅力です。空気や水も澄んでいて、生活そのものが心地よくなります。静かな環境の中で過ごす時間は、心身を整えてくれるようです。もともと「ここに住みたい」と強く思っていたわけではありませんが、実際に暮らしてみると、想像以上に面白い場所だと気づきました。散歩をするだけで新しい発見があったり、ちょっとした景色にも驚きや感動があったりします。暮らしの中に小さな喜びが積み重なっていくようで、日々ワクワクしています。



本耶馬溪に惹かれたのはどんなところですか？
 印象的なのは、あちこちにそびえる岩や崖のような裸岩です。最初はただ雄大な景観として心を奪われましたが、地元のおじさんにうかがうと、ここより上には祠や珍しい植物があり、山そのものが巨大な岩で、かつて山伏が修行した場所でもあるとのことでした。自然の造形的美しさが、そのまま歴史や信仰とつながっていることに驚きました。四国のお遍路と似た思想で作られたのかもしれないし、空海と関係があるかもと想像しています。自分の知らない世界を広げられる、発掘のような体験ができる場所。それが本耶馬溪の大きな魅力で、「ここに呼ばれたのかもしれない」と感じることもあります。

暮らしてみて、大変だなと思うことはありますか？
 やはり不便さはありますね。都会では当たり前にあるコンビニも近くにありません。買い物や外食の選択肢が少ないのは慣れれば大したことはないです。ただ、それ以上に大変なのは水と道。大雨や台風のたびに道が川のようになり林道の側溝から泥水が押し寄せます。行政に相談すれば対応してくれますが、自然の厳しさを実感します。それから停電。短いとはいえたびたび起こります。携帯電話の電波も不安定で、ドコモやauも圏外。しばらくは有線回線を使いましたが、これも何かあるとすぐに止まる。今の時代ネットが必要不可欠ですから、安定した通信環境が欲しいですね。光回線は麓まで来ているようですし、今後は衛星インターネット「スターリンク」も選択肢になりそうです。



最後に、本耶馬溪への移住を考えている方へメッセージをお願いします。

まずは「理想と現実とは違う」ということです。田舎暮らしに憧れても、まず大事なことはライフライン。移住先を視察するなら、天気の良い時ではなく台風直後など、あえて最悪の状況で訪れてみる。そうすれば本当の姿が見えてきます。次に通信環境。ネットが不安定だと仕事にも制約が出ます。そして危険動物がいるかどうかも要確認。けれど、自分でチェーンソーを使って木を切り、薪を割り、薪ストーブで暖をとる。その火で家全体がじんわりと温まる瞬間は、何ものにも代えがたい豊かさだと感じますね。

地域の方との交流はありますか？
 ここは12~14戸ほどの小さな集落です。私が来たのは60歳を過ぎてからでしたが、「若い衆には頑張ってもらわんと」と言われて大笑いしました。周囲の方は90代でもお元気で、暑い中でもゲートボールをされているんですよ。その姿に、いつも励まされます。それに、本当に色々なことを教えていただいています。例えば、すっぽんや猪の捕り方まで。その流れて狩猟免許も取得しました。狩りをするのが目的というより、畑を荒らす動物から作物を守るためですね。



階段をつくりました

移住してよかったことランキング

- 1位** 自然が素晴らしい
- 2位** 住んでいる人が温かい
- 3位** 都会の喧騒とは無縁の静けさ

本耶馬溪地区の暮らしを支える施設

《子育て・教育》	《生活》	
●保育園	1園	●道の駅
●小学校	2校	●病院、診療所
●中学校	1校	※下記含む
		●歯科
		1施設

本耶馬溪地区のピックアップ



青の洞門

国指定の名勝にも指定されている、僧禪海が難所で命を落とす人馬を救うため、30年かけ手彫りで掘ったと伝わる隧道です。



耶馬溪橋

日本最長の長さ誇る石造アーチ橋で国の重要文化財指定。オランダ橋の愛称で親しまれ、優美な8連アーチが特徴。



古羅漢とそば畑

岩窟に数多くの石仏が安置されている古羅漢とその裾野に広がるそば畑。



本耶馬溪の蕎麦

数多くの店がありますのでお気に入りのお店を探してみてください。